

令和5年度県立特別支援学校チャレンジ2023実施報告書

上記のことについて、下記のとおり報告いたします。

1 事業名称	森林（もり）のコミスク推進事業			ーもりのこプロジェクトー
2 事業目的 ※学校グランドデザインを踏まえて記入すること。	1 個別最適な学びを求め、積極的に地域資源や関係諸機関と連携構築ができる。 2 地域と課題を共有し、社会に開かれた教育課程で相互の学びに貢献できる。 3 子どもや保護者が郷土の良さを知り、地域における共生風土の素地を育てる。			
3 事業目標 ※数値目標等を示すこと。	1 自然体験活動に係る外部人材を含む学校運営協議会を組織し、年間5回の協議での指導・提案による学習活動の改善を継続し、特色ある教育課程の創出を図る。 2 年間6回の自然体験活動をととして、全職員が教科の関連を意識した授業計画と改善を繰り返し、年度末に学習全体を俯瞰する単元配列表を完成させる。 3 児童生徒の個別最適な学びと社会参加のため、体験活動への全員参加のためICTツールを駆使した実践を、地域・保護者等の参加を含めて実現する。			
4 実施内容	1 大子町「全方位アウトドア」構想との連携によるWinwinの協働体制の確立 2 CSとの協働による自然資源を活用した特色ある教育活動と地域貢献の実現 3 R7年度までの2年間で、地域共生型学校としての特色ある教育課程の創出			
5 事業成果	1 学校運営協議会での熟議から実現した自然体験活動と学習成果の高評価 ・小学部…稲作（田植～刈取り）、久慈川での川遊び、森林セラピー ・中学部…リンゴ栽培、柿の収穫・加工、外来植物駆除、茶摘、溪流釣り、野外調理 →自己評価：育成を目指す子ども像の3観点で体験活動前後の自己成長を記録蓄積 保護者評価：体験活動と関連付けた教科学習の成果として、3観点とも高評価 小学部は知識・技能、中学部はICT活用能力の伸長が顕著 2 計10回の自然体験活動を実施し、教科学習を関連付けた単元配列表を作成 ・全職員が担当する教科等の単元配列表をPDCAで継続作成し教科間の関連を可視化 ・教育課程検討委員会にて実施した体験活動を教科等のねらいに照らして整理改善 ・小学部は生活単元学習・遊びの指導を、中学部は生活単元学習を教科等に再編 ・小学部は生活科、中学部は社会・理科を新設し、併せて職業との系統性を明確化			
6 事業評価 ①目標達成度	A	A（81%以上の達成状況） B（60%～80%の範囲内の達成状況） C（50%程度の達成状況） D（30%以下の達成状況）		
② ○評価と分析 ●今後の方向性	○評価（3事業目標と対応） 1ー① 学校運営協議会からの提案を、の小・中学部とも学習に反映し実現した。 ② 体験活動をコアとした教科等横断的なカリキュラムを検討し確立できた。 2ー① 地域人材と連携し、年間10回（隔月1回）の自然体験活動が実施できた。 ② 全教科担当者が各教科等との関連づけを意識した単元配列表を作成した。 3ー① 全生徒、保護者が実地、遠隔等を問わず事業に参加することができた。 ② 積極的なICT機器の活用をととして、その効果と課題が明らかになった。 ●教育課程への反映と改善 ①活動実績と評価を分析し、コアとなる活動の絞込みと教科等の関連付けを計画 ②日常生活、作業学習の内容分析を行い、R7教育課程で改善（二年計画の完成）			
7 事業費合計	千円			
8 広報手段	ア 学校のWebページ（必須） イ 学校のWebページ以外の広報手段 ※学校の取組を、積極的に外部に発信すること NHK放送（2回）、茨城新聞（2回）、県教委フォトニュース、大子町広報誌 FMだいが放送（2回）、地域回覧板（4回） ※冊子等の印刷物等、使用した広報手段を具体的に記入すること。			
9 ①組織名称	もりのこプロジェクト推進委員会			
②構成人数	8名（校長・教頭・教務・部主事（2名）・ICT係長・地域連携係長・事務担当者）			

担当者職・氏名

教 員

事務職員